

自己と他者をつなぐ新聞活用

指定校 2 年次 長野県長野西高等学校全日制 半田 淳子
西澤 一志
山野井亮秀

(1)本校の新聞活用(NIE)の現状

本校は各学年に普通科 6 クラス、国際教養科 1 クラスがあり、全校生徒数 841 名(H28.4.1 現在)が在籍。H27 年度卒業生の 94%の生徒がセンター試験に出願をした高校である(数字は本年度の学校要覧をもとに算出)。学校重点目標にもある“進路目標を実現するための学力向上”に向け、学校全体として以下の取組みを行ってきた。

○新聞記事紹介

学校長と教頭、各学年の副担任が順番で、生徒に読んでほしい記事を 1 ヶ月に 1 回程度のペースで A4・1 枚程度にまとめ、各担任が HR の時間に配布し、感想などを書き込んでいる。

○国際教養科の取組み

「イギリスの EU 離脱」について、個人で新聞やインターネットを使って調べ、グループで意見交換・全体討議を行った後、二度目のグループ討議を実施。議論は原則的に英語で行われた。多様な価値観と異文化を理解受容し、国際社会のあり方を学ぶ国際教養科ならではの授業となった。また、他国の文化を紹介する模造紙新聞を作製し、廊下に掲示するなど、「新聞をつくる」という観点からの NIE 実践も行われている。

○現代社会(1 年次履修)での取組み

授業担当者は年間約 60 枚の授業プリントすべてに関連する新聞記事を紹介し、学習項目と社会とのつながりを意識させた。さらに 5 回に 1 回はペアワークやグループワークをして自分自身の意見を発表し、他者の意見に耳を傾けることを行った。さらに読売新聞へ「東大が女子学生に家賃補助をすることに賛成か反対か」というテーマで投書を行った。長期課題での新聞レポート(自分が興味・関心を持った新聞記事を配布したプリントに貼り、感想を書いて提出)も実施。

○国語科

現代文の授業時に行うドリルの裏面に新聞記事を掲載し、ドリルが早く終了してしまった生徒は裏面を読めるようにしている。また新聞発表(生徒が選んできた記事を皆で読み、選んだ生徒自身が感想発表)をすることもある。

(2)実践のねらい

上記の現状を踏まえ、また NIE 研究指定校の決定を頂き、以下のねらいを定めた。

- ・ 1 つの事象を多角的にとらえられる力を意識させる。
- ・ 自分と他者の意見を比較し、さらに深く考察できる力を育成する。
- ・ 主権者として幅広い視野で社会全体をみることが出来る機会の 1 つとする。

これらの力が必要となるのは本校だけでなく、広く一般の高校生全体に求められるものと考え。特に公職選挙法の改正に伴い、2016 年の夏に行われた参議院選挙では文字通り主権者としての判断力が求められると同時に、新しい主権者教育の在り方も求められている。これらの

力を育成するためには、まず報道されている内容に積極的に興味をもち、それらについて理解することが大前提である。その興味・関心を喚起する方法の具体化が、本校の本年度の取組みと関わってくると考えた。

(3)研究の概要

本年度の主な取組みは以下にある①～⑤である。提供して頂いた新聞は、いずれも印刷室に常備し切り取りなどの加工は自由とした。ただし、印刷室は通常生徒が出入りしないので、実際には職員間で利用するのみとなった。生徒が利用できるようにするための工夫は、来年への課題となっている。また、学校で購入している *Asahi Weekly* や長野市民新聞もあり、新聞紙の種類としてはバラエティーに富んだものとなった。さらに、管理職の先生や事務の方をお願いをして信毎データベースも利用できるようにして頂いた。キーワードや日付により記事を検索することができ、NIEを進めていく上で、これは大変便利なものであると感じた。実際に研究授業をくみたてる上で、おおいに利用した。

①新聞記事紹介 前述(1)の通り

②授業での取組み 前述(1)の通り

③キャリア教育への活用 (1 学年)

本校では、例年 1 学年を対象にキャリア教育の一環として、3 日間の進路研修会を設けている。本年度は、最終日に 9 台のバスに分乗し、午前中は企業、午後は大学の見学を行った。その事前学習として、各企業の経営の状態や理念に関する新聞記事を配付し、それらをもとに質問事項を考えさせることにより、主体的意識の向上をはかった。見学する大学に関しても、地域との繋がりや特色ある取組み、関係する社会問題に関する新聞記事を配付して事前学習させたため、質問内容がより深いものになり、多くの刺激を得ることに貢献した。

④主権者教育「模擬投票」への活用 (1 学年)

「2017 年秋に衆議院総選挙が行われる」という可能性を考慮し、それに向けて地元立候補者の理解度を深め、実際の衆議院選挙での主体的意識の醸成をはかることを目的に、模擬投票を行った。2016 年の参議院選挙前に掲載された、小選挙区候補者に関する新聞記事を配付し、模擬投票を実施。その後、実際の選挙結果と模擬投票の結果を比較・考察し、レポートとしてまとめた。ほとんどの生徒が真剣に慎重に考えて投票するため、その中で「良く理解できていないことが多いのに、投票した」という経験をすることが、その後の政治意識の変化に大きく影響すると思われる。そして、現在の立候補者たちの活動状況に対して興味が広がっていくことを期待している。「思われる」や「期待している」などと記したのは、模擬投票をしたからといって、すぐに生徒たちに何らかの変化が見られるわけではないからだ。その成果を実感するためには長い時間が必要であるし、そもそも教員がそれに気付くことはないかも知れない。しかし主体的な主権者となるために不可欠な教育機会であると信じて、今後も継続していきたい。

⑤公開授業(平成 28 年 12 月 9 日。)

1 年 1 組の現代社会で公開授業を実施した。授業の主題は「将来の自分のワークスタイル」である。日本の今後の労使関係と労働市場のあるべき姿を、そして自らのワークスタイルについて異なる視点から考察し、「主体的視線」と「多角的視野」の成熟をはかる。主題テーマに対して主体的に取り組み、社会的な問題に関しての主体的視線を持つことができるか。また新聞記事を読むことや意見交換を通じて、自分の考えとは異なる主張に触れ、多角的に物

事を見ることができるか。この二つを重要な目標に設定した。

それまでの授業において、「ワークライフバランス」「過労死→資料①」「フレックスタイム制→資料②」「変形労働時間制→資料③」「裁量労働制」「ワークシェアリング→資料④」「子育て休暇→資料⑤」「1億総活躍プラン」「女性活躍推進法」「高度プロフェッショナル制度」など、労働・雇用問題と関係するキーワードについて学習。数多くの新聞記事に触れ、雇用・労働問題の現状を理解した上で、本時を雇用・労働問題に関する学習の仕上げととらえ、自らが望むワークスタイルを考察した。

段階	学習内容と学習活動	指導・助言
導入	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントの「前回の復習」の問題を解く。 授業の流れと学習テーマの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分が望むワークスタイルを考えること」が、重要な学習テーマであることを意識させる。
展開1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の音読(全員が起立して各自で音読)。 授業プリントを使用した学習。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やめ」と言われるまで、読み続けるよう声がけをする。
展開2	<p><u>1、ペアワーク準備</u> これまで配付してきた新聞記事や授業プリント→資料⑥などを参考に、「自分が望むワークスタイル」について考察し、授業プリントの記入欄にまとめる。</p> <p><u>2、ペアワーク</u> 隣の生徒と2人1組になり、1人2分間でお互いに意見発表をする。窓側の生徒が先に話し、廊下側の生徒が後。</p> <p><u>3、発表</u> 4人に発表してもらおう。①自ら挙手をした生徒、②隣の生徒から推薦された生徒、③教員に指名された生徒のいずれかで発表者を決定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2分経過する前に意見発表が終わってしまった場合は、聞いていた生徒が質問をするよう、指導する。 男子生徒と女子生徒の比率に注意する。
まとめ	他の生徒の意見を聞いた上で、最終的な意見を記述欄にまとめる。	

資料① 2016.10.15 信濃毎日新聞朝刊「電通新入社員自殺・もう体も心もズタズタ」

資料② 2008.7.12 信濃毎日新聞朝刊「フレックスタイム制を導入・渋滞緩和も」

資料③ 2015.3.22 信濃毎日新聞朝刊「サイボウズ社は社員が働き方を自由に選べる制度を導入」

資料④ 2009.4.15 信濃毎日新聞朝刊「雇用の優等生・ワークシェアリング」

資料⑤ 2016.1.7 信濃毎日新聞朝刊「先進地フィンランドを訪ねて・子育て休暇は最高の歳月」

資料⑥ 授業プリント

【あなたが望むワークスタイルとはどんなものか】

①ペアワーク準備

あなたが望むワークスタイルとはどのようなものか。これまで学習した「ワークライフバランス」「過労死」「フレックスタイム制」「変形労働時間制」「終身雇用」「年功序列型賃金」「成果主義」「ワークシェアリング」「子育て

て休暇」「女性活躍推進法」「高度プロフェッショナル制度」「非正規雇用者」「ワーキングプア」「所得格差」などの言葉を使って、2分間のスピーチができるよう、あなたの意見をまとめよう。

.....

.....

.....

.....

.....

②ペアワーク

隣の人に、①でまとめた自分の意見を発表しよう(窓側の人から)。自分の意見とは異なる点を箇条書きでメモしよう。

- ・
- ・
- ・

③意見発表(4人の人に発表してもらいます)

- ・
- ・
- ・
- ・

④他の人の意見を聞いてどう思ったか、感想を書きましょう。

.....

.....

.....

.....

(4)研究のまとめと残された課題

(1)で取り上げた新聞記事紹介の取組みは、NIE 研究指定校となる前から取り組んできたものであり、本校における NIE 実践は比較的学校全体で行われてきた。国語・英語・地歴公民などの授業内でも積極的に新聞が活用され、本校生徒が1年間で読む新聞記事の量は多いと思われる。しかし小中と比較して、高校は自身の取組みのノウハウを共有し、その実践例を協力発展させていく機会が少ないように思われる。本校でも様々な魅力ある取組みが行われているにも関わらず、それが個人あるいは教科の段階で停まってしまっていることは、誠に残念なことであると痛感した。NIE 担当責任者を中心として取組みに関する情報を集約し、効果的な情報発信ができれば、教科横断型の NIE 実践など、さらなる広まりに大きな期待が持てる。

また本校では、小論文対策の一環として新聞を扱う生徒も多く、新聞がいつでも閲覧できる環境を整えることは必須である。新聞の設置場所も一考の必要があり、もっと生徒の目に入る場所を検討したい。

さらに本校は平成 29 年 2 月 1 日にユネスコスクールに認定された。ESP(持続可能な開発のための教育)の一環として、新年度からの NIE を位置づけたいと考えている。